

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年5月16日

事業所名 Plus+days鳳校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	プレイルームをパーテーションで区切り、個別対応を行っている。 利用児童が多い時にはパーテーションを開けて広く空間を使うなど工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	適切な職員配置での運営に気を配っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	外階段に手すりを付けている。	外階段が雨の日滑りやすいため、防滑テープを貼る等対応を考える。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	朝礼、終礼で情報共有をしたり、参加できない職員にもわかるように共有ノートにその内容を記載したりしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	評価表でいただいた意見をもとに、職員へ問題提起を行い、課題解決のためにできることを考えている。	職員間への共有を行うが、日常的な確認や年度途中入職の方への周知が十分でないため、周知の徹底を行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	92%	0%	ホームページで公開している。	年度途中の職員への周知が行き届いていないため、周知の徹底を行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	17%	外部評価はおこなっていないが、社内での評価制度を用いて評価を行っている。	年度途中の職員への周知が行き届いていないため、周知の徹底を行う。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に研修を行い知識を高めている。 研修情報の共有を行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	書きやすいよう簡略化したアセスメントシートを用いて現状の把握と解決策を考えている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	92%	8%	職員間でノートを使って情報共有を行っている。 学習支援に対して共通のアセスメントツールを使用している。	標準化されたマニュアルを策定していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	個々に合わせた課題を考えて取り組んでいる。 スタッフ同士で話し合いを行い案を出し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	毎週違うイベントを実施し子どもたちの力を引き出している。 活動内容を事前に決めて固定化をなくしている。 担当職員が固定化しないようにしている。 季節や子どもからの要望も踏まえてプログラムを考えている。	固定化しない中でも統一された支援に対する考え方や支援の目的をもって各自が対応できるよう、工夫をしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	92%	8%	平日は学習等課題活動中心、土曜日はイベント活動中心にしている。また、長期休暇中は限られた時間の中でも楽しめる活動を考えるようにしている。	長期休暇中も平日と変わらないサービス提供時間だが、中でも特別感や楽しみをもって参加できる活動は何かさらに考えて取り組みに反映させていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団活動、個別活動を分けて行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日必ず朝礼を行い1日のスケジュール確認を行っている。 イベント内容や集団活動の内容は事前に共有するようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼を通してそれぞれが感じたことや子どもたちのようすを確認し、次の支援につなげるようにしている。 ノートに記載し終礼に参加できなかった職員にも共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	92%	0%	記録漏れがないか毎日確認をとっている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	職員間で話し合いつつ、子どもの日頃の様子や課題等についてモニタリング内容に繁榮させている。		

19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	92%	0%	基本活動を複数含むよう意識しつつ支援を行っている。	基本活動の中のどれにあたるのか、日々の日常的な支援と常にリンクさせることができるよう、職員全体へ周知行う。
----	---------------------------------	-----	----	---------------------------	---

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参加している。	児発管だけでなく、可能な限り職員も同行するようにする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎時の引き渡しの際等学校でのようすや学習内容等についてしっかりとコミュニケーションをとるようにしている。 送迎時間、利用日が記録された手紙を配布している。 下校時刻の用紙をいただいたり、送迎方法について学校と連絡を取り情報を共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	17%	医療的ケアが必要な子どもはいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83%	17%	児発から通っている子どもに対しては、各機関と引き継ぎを行えている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	67%	17%	該当する児童がいない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	8%	センター研修は受講できなかったが、支援に精通した他事業所や他機関に相談し助言をいただいている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	42%	地域の児童との交流の機会をもてていない。	交流できる機会をどのように生み出していくのか模索していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	8%	地域自立支援協議会への参加はできていない。放課後連絡会にはできる限り参加して、地域のことや障害支援の動向について学ばせてもらっている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳で様子や気になったことを共有している。 発達の状況や本人の課題、些細な出来事等共有するようにしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75%	17%	保護者会の中で支援に関する助言を行っている。 相談があった際や、子どものようすや保護者のようすから必要とされると感じられた時には、その都度保護者へ向けての助言、支援を行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	92%	0%	契約時や保護者から質問があったときなど、丁寧な説明を心がけて対応を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談を受けた職員だけでなく、話を共有して職員全体で助言や支援ができるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	92%	8%	保護者同士繋がりをもてるように、年に数回保護者会を実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	92%	0%	体制整備を行い、迅速・適切に対応できている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	92%	0%	毎月紙媒体の通信を作成、配布している。 SNSでも活動内容を投稿している。	
	35	個人情報に十分注意している	92%	0%	入職時、職員に秘密保持の同意書にサインをもらっている。 利用者の写真掲載について同意書をもらうとともにそれぞれの意識について一覧表を作成して都度確認している。	

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	92%	0%	子どもに対しては、それぞれの児童に合わせて写真やイラストカード、ハンドサイン等を用いて対応を行っている。 保護者に対しては、言葉だけでなくアンケート用紙で要望を聞いたり、伝達事項を書面にも書き起こす等して対応している。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	42%	地域との交流の機会は持っていないが、同法人の他事業所との交流行事を実施している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	8%	職員へはSNSを用いた共有ノート等を通じて周知を行っている。	保護者に対しては、共有システムの活用等を行っていつでも確認いただけるような形式での公開も検討していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	92%	0%	避難訓練を年2度行い、備蓄もそろえている。	職員への訓練について、今後もっと力を入れていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	92%	0%	年2回、定期的に研修を行っている。当日参加できなかった職員には動画を撮って視聴してもらっている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	17%	現在身体拘束を行っている児童はいない。安全確保の必要がある場合には事前に保護者への説明を行っている。	情報共有はおこなっているが、職員による意識の差を埋めるためにもさらに詳細な認識共有のためのツールを考えていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	8%	アレルギーの有無についてフェイスシートで確認して一覧表を作成している。アレルギー食材を用いた調理活動は行わない。含まれる可能性がある場合は事前に保護者へ確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	92%	0%	作成したら共有ノートに記入し専用ファイルに綴じていつでも振り返ることができるようにしている。	共有した内容を職員がどこまで詳細に把握できているのか不明なため、周知の程度を図り徹底できるよう工夫を行っていきたい。